

日韓ユース平和フォーラム 2023 他

～極私的な回想録～

『むくげ通信』321号 (2023. 11. 26) 大和泰彦

8月の下旬、再び東京方面へ行ってきた。8月29～9月2日にかけて行われた日韓ユース平和フォーラム 2023に参加したのが最たる目的だ。昨年、ソウルと坡州で開催された「日韓和解と平和プラットフォーム」のユース平和フォーラムについて通信でも連載したが、その2回目である。特に今年の9月1日は関東大震災朝鮮人・中国人虐殺から100周年、プログラムの中でも一大テーマとなった。私も運営委員としてスタッフと学生達と一緒に事前準備から色々と携わらせて頂いた。

正式な記録は報告書に託して、ここでは私の目線から今思い出すままに回想してみたいと思う。

★

・8月28日

公式行事の前日である。実はこの2週間前、全国キリスト教学校人権教育研究協議会の研修に参加するべく、東京行きの新幹線に乗ったのだが、静岡付近での大雨のため、6時間も車内に閉じ込められる経験をしたばかりだった。おかげで川崎桜本の分会フィールドワークに参加出来なかった。今回も大事を取って前日入りすることに。ルーテル市ヶ谷センターにチェックインし、野暮用をいくつかこなし、夜はアメ横高架下付近にある行きつけの大衆酒場で1人前夜祭を行なった。

・8月29日

午前中はドラッグストアへこもり、大人数なので念のため常備薬や必要なものを多めに買い込んだ。私は生まれ育ちが東京で幼い頃から大の蕎麦好き。昼は築地市場からほど近くにある大好きな蕎麦屋「さらしなの里」で食べてから、荷物をまとめて宿泊先となる代々木のオリンピック記念青少年総合センター(以下オリセン)へ向かう。オリセンで思い出した。かつて80～90年代にかけて肉親捜しのため来日した中国残留孤児とその関係者達のための定宿になっていた施設だ。最寄りの小田急参宮橋駅から入口まで歩くと



結構距離があり遠回りを強いられる。敷地は思ったより広大だ。

夕方、日本と韓国から約40名の参加者が集まっていよいよ開会式。年齢層も10代から30代まで、学生から宗教者、教員、市民活動家まで多彩である。私はもはや後期青年の部類になるだろうか。キリスト教関係からはカトリック教会、ルーテル教会、バプテスト教会、在日大韓教会、NCCK、各YMCA・YWCA、各ミッションスクール、そして私の神戸学生青年センター等々、実に多教派、多団体の青年が集まった。また今回は日本山妙法寺や天道教団体からの参加もあり、実にエキュメニカルなメンバー構成となった。

夜は運営委員の学生達を中心となって企画してくれたアイスブレイクの時間。自己紹介ゲーム等で参加者同士の交流を深め、季節や食べ物の好みなどが分かって楽しいひと時だった。今回宿泊棟の部屋が全部個室なのは本当にありがたい。私は元々夜型人間なのだが、30を過ぎた頃から徹夜がしんどくなってきた。翌朝にメチャクチャびびくのだ。大事をとって初日は早めに就寝。

・8月30日

朝7時に起床。宿泊棟1階の自販機には私が最も苦手とする「早ね・早おき・朝ごはん」と書いてある。オリセンの朝食はバランスが取れていてなかなか美味しい。意外と国内外の宿泊客は多いようだった。

バスをチャーターし荒川河川敷へ出発。八広地域センターでほうせんか理事の西崎雅夫さんによる講演、この地域における朝鮮人虐殺の概略を理解出来た。その後、西崎さんのガイドで荒川周辺の虐殺現場を歩いた。今までも何度か訪れたが、西崎さんの解説なしにはそうと気付かない場所が実に多かった。約40年前の記録映画「隠された爪痕」の撮影場所でもある。実際にFWしていると、100年前の光景が目に見え、殺された者の声が聞こえてくるような錯覚に陥った。



土手近く、「ほうせんかの家」の横に建つ慰霊碑の前では、仏教式とキリスト教式で追悼の祈りを捧げた。

再び地域プラザに戻り、慌ただしくお弁当を食べる。食べ終わってから韓国の参加者数名と談笑していたところトラブル発生。京成八広駅の駅員さんから私の携帯に突然電話がかかってきた。どうやら私は荒川の土手でSuicaを落としたらしく、親切な方が拾って八広駅まで届けて下さっていたのだという。西崎さんに万一間に合わなかったら次の目的地まで自力で向かうと状況を伝え、結構遠い駅まですっ飛んで行った。無事に見つかった。ただでさえ猛暑で汗だくの中、更に冷や汗までかいた。やれやれ。去年のソウルでは携帯を置いたまま電車に乗ろうとするし、ここ最近要注意である。届けて下さった方にこの誌面を借りて感謝申し上げます。

何とか間に合って横網町公園に出発。公園内にある東京都復興記念館を見学。虐殺についての展示は特になく、震災と空襲で2度も焼け野原となった東京がいかにして復興を遂げたのかを主題とした都の資料館である。その



中で「自警団」の油絵に目が留まる。徳永柳洲作によるこの絵には、自警団に捕らわれた朝鮮人の姿も描かれている。西崎さんの説明で

初めて気が付いた。描かれたその表情が忘れられない。ただ案内板の「焼跡を警して、永年住み馴れた居住地を護った」という文言にはびっくりした。

公園内の東京都慰霊堂、その横にある朝鮮人犠牲者慰霊碑をみんなで訪れ、メンバーの中で最も若い学生2人が追悼の祈りを捧げた。



毎年ここで朝鮮人虐殺犠牲者の追悼式が行われているが、「震災で亡くなったすべての人々を哀悼する」という理屈でもって、今の都知事は朝鮮人犠牲者への追悼文を出し渋っている。被災と虐殺ではそもそも意味合いが違う。



その後、安田庭園を通過して虐殺現場である旧御蔵橋付近を歩く。当時の写真を見せてもらおうと、隅田川のほとり、ちょうど両国国技館の前で、今は埋め立てられているが、言われてみれば橋だった痕跡がみられる。ここでFW終了。虐殺の事実を

隠蔽しようとする国の力に抗い、学生の頃から証言と記録を集め、地道に調査を続け、歴史の語り部として活動してこられた西崎さんに改めて敬服した。

夕食後は「韓国人被爆者問題から日韓の歴史を考える」をテーマに元朝日新聞ソウル支局長の小田川興さんの講演をオリセンでお聞きした。広島・長崎から韓国へ戻った被爆者は約7万人いるが、日本政府はおろか、韓国政府や世論の理解も得られず、多くの人々が原爆症と闘い、経済的に苦しい生活を強いられてきた。この事実は未だに日本と韓国で広く知られておらず、韓国では70年を経た2016年ようやく特別法が通ったばかり、日本では渡日治療や手帳交付は行いが、大掛かりな調査には至らない。被爆者が最も多く暮らす陝川を私も一度訪ねてみたい。朝鮮民主主義人民共和国にも認定被爆者が生存しており、日朝関係正常化の中でも今後大きな課題になることだろう。



かなり盛りだくさんでハードな1日だったため、12時にはバタンキューであった。

・8月31日

この日は各々が希望する5つの小グループに分かれて行動。高麗博物館、明治大学登戸研究所資料館、川崎ふれあい館、海軍横須賀基地などそれぞれFWし、夜は合流して文京シビックホールでの「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺100年犠牲者追悼大会」に全員で参加するといった日程だ。いずれも日本社会に横たわる歴史と課題を考えるには最適なコースである。全部参加したかった。

私達のグループは当初、朝に両国の復興記念館を訪問する予定にしていたが、前日に見学したこともあり、「朝鮮人・中国人虐殺の記述があるじゃなし、2回も行く必要ないだろう」との意見が多数を占め、訪問先を在日韓人歴史資料館へ絞ることに。1か所のみでは時間が余るため、水道橋の在日韓国YMCA内にある2・8独立宣言記念資料室を開けてもらえないかと思い、前日から何度か電話をかけたのだが、なしのつづてであった。

日程の中日ということもあり、麻布十番駅で現地集合することにして少し遅めに出発。私は案内役と救護担当に指名されており責任大だ。韓国の学生からのリクエストで駅近くのモダンなラーメン店にみんなで入ったのだが、支払いがキャッシュレス専門で少々戸惑った。麻布

界限ではこれがもう一般的なのか？

ともあれ食事の後、在日韓人歴史資料館を見学。大韓民国領事館内にあり、警備が厳重で事前予約が必要。今までにも何度か来ているが、初めて学芸員さんの解説を約 30 分聞かせて頂いた。説明の後、じっくり館内と図書館を見学した。ここで、ユースフォーラム取材に来られたカトリック新聞の記者の方と合流、同行して下さることに。中庭に在日の人々の生活物品が屋外展示されており(戦前の鶴橋と新長田の写真もあり)、記念写真を撮った。小規模だが、初代館長の故姜徳相さんの思いが結集し、在日コリアンの歴史と文化が凝縮された良い資料館だと思う。

神保町へ移動。ダメもとで夜の追悼大会会場からわりと近くの在日韓国 YMCA を訪問。私はコロナ前まで東京での定宿としていつも利用させて頂いていた。今は様々な事情で休館中のため、2.8 資料館は断念した。中に入れないので、朝鮮独立宣言記念碑の前で長年理事を務



めてこられた佐藤信行さんと大和で在日韓国 YMCA の歴史と現状を急きょ説明し、スタッフの崔さんが通訳して下さいました。東京の中心部に位置しながら、1919 年、朝鮮人留学生らによって

ここで起草された 2.8 独立宣言が、3.1 独立運動への導火線の 1 つとなった。また今の在日大韓基督教会の出発地でもある。由緒ある場所であり、今後も末永く歴史継承の場として広く活用されることを願ってやまない。

まだ時間がある。韓国 YMCA の近くにあるカトリック神田教会の中を見せてもらった。聖堂は東京大空襲の戦禍を免れ有形文化財に指定されている。あまりの暑さにちょっと移動するだけでもへたってくる。少し体調の優れないメンバーも出始め、無理は禁物だ。文京ホール方面へ歩くと、東京ドームシティのジェットコースターが見えた。みんなであれに乗ろうという話になり、三半規管が弱く絶叫マシンが大の苦手な私は顔面蒼白(笑)。逃げ出してフードコートで冷麺食べながら資料整理をして待っていた。佐藤さんと記者さんは先に会場へ。無事合流して追悼大会が



行われる文京シビックホールへ向かう。今回の日程の中でハイライトの 1 つだ。私達のグループが最も早く到着、遠方まで出かけたグループは若干間に合わなかった。会場は日本全国・韓国・中国から集まってほぼ満席だ。関西の知人にも 20 人近く出会ってびっくりした。



午後 6 時に開会、オープニングは中国上海から来日した東方芸術団の歌と踊り。特に「松花江上」の歌と震災で虐殺された王希天の物語が印象的だった。王希天は中華 YMCA の幹事を務めたクリスチャンで、あの周恩来の日本での先輩にあたる。東京の中国人留学生の中でリーダー的存在であったが、軍によって虐殺され旧中川に遺棄された。

田中宏さん、慎民子さん、林伯耀さんが開会の挨拶。続いて韓国の遺族会代表の権在益さん、中国温州の遺族聯誼会の周江法さんの発言。制限時間を越えるほどの遺族としての思いに胸がつまる。来賓として中国公使の楊宇さん、朝鮮総連副議長の徐忠彦さんが挨拶。国会議員からは立憲民主党の杉尾秀哉さん、社民党の福島瑞穂さんが挨拶。100 年経ってもなお「証拠がない」と言い切る今の政府の中であって、数少ない良心的な政治家として今後も活動に思いを託したい。続いて正義記憶連帯の李娜栄さんはじめ、海外市民団体代表による挨拶が続いた。各現場からの活動報告として専修大学の田中正敬さん、ジャーナリストの安田浩一さん、川崎ふれあい館の崔江以子さんが発言。特に今もヘイトクライムに追われる崔江以子さんの「100 年経った今でも、殺されるかもしれないという恐怖を感じる」という言葉が、今も耳に残って離れない。



第 2 部ではピアニストの崔善愛さんが「追悼のエチュード」と題して「革命のエチュード」「アリラン」「別れの曲」を演奏。お話の中で「新宿の街をチマチョゴリで堂々と自分が歩く姿は 100 年経っても想像が出来ません」という言葉が強く心に残っている。まさに今の日本社会の現状そのものではないだろうか。続いて紫金草合唱団と歌手の李政美さんの合同演奏による「鳳仙花」が披露された。日本統治

時代の 1926 年、洪蘭坡によって作られた民族歌曲で、今でも世界中のコリアンに愛唱される名曲だ。

またこの日は登壇された神奈川県実行委員会の山本すみ子さんと約 10 年ぶりにお会い出来た。新たな証拠資料が見つかったということで、活動を心から応援したい。予定時間を少々越えて 9 時半に大会が終了。若い世代は少ない気もするが、会場に入りきらないほど多くの人々の熱気に包まれ、共に怒り、共に悼んだことは、大きな希望であり、自分のフィールドでお互いに頑張ろうと思え、大きく励まされた。会場では驚くほど多くの知り合いに出くわしたが、この日韓ユースフォーラムの取り組みを直接アピール出来た点でも良かった。

・9 月 1 日

午前中は昨日と違うグループに分かれて、最終日に発表する新しい宣言文の案をみんなで起草した。昨年は私も 4 人の起草委員の 1 人で、先に基礎となる文章を委員で作成してから全員に提示したのだが、今回は起草の段階から全員で考えて委員が文書化するという手順となった。ハードな日程の中、皆さんから集められた文を最終的にまとめて下さった委員の皆さんに感謝である。

昼はこのグループで出かけることになり、ある韓国の参加者から遊就館へ行ってみたいとの希望があった。私は一瞬驚いたが、今の日本のネトウヨ歴史修正主義論法を知る上で見聞のためにも皆さんが OK なら良いだろうと思った。私は昨年、辻子実さんの『靖国の闇へようこそ 靖国神社・遊就館非公式ガイドブック』を片手に、改めて境内や遊就館をくまなく見学してみたが、歴史解釈の矛盾や酷さに一層拍車がかかっている気がした。遊就館で観覧者同士の会話内容に寒気がしたのを覚えている。



を大いに語り合った。深イイ話の内容は秘密(笑)。

午後 4 時、文科省前に全員集合。朝鮮学校への高校無償化適用を求める「金曜行動」に参加した。本当は朝鮮学校を訪問して、先生や生徒達の話を知りたいというのが希望だったが、夏休み中ということで叶わなかった。

金曜行動は朝鮮学校への高校無償化の適用を求めて、2013 年から主に朝鮮大学の学生たちによって始められ、

毎週金曜日に文科省前で学生と支援者を中心に集会を行なっている。この日は韓国・アメリカの市民グループも加わり約 200 名が集まった。ウリハッキョと子どもたちを守る市民の会代表ソン・ミヒさん、民族問題研究所の金英丸さん達が発言。日本社会の朝鮮学校に対する無理解と差別が蔓延る中、韓国市民が率先して朝鮮学校の子どもたちに寄り添い、支援を展開して下さることが本当にありがたく、同時に申し訳ない。日韓ユースフォーラムからは 2 人の学生が発言。この 4 日間を通して見たこと、感じたことなどを自身の生い立ちや体験も踏まえて率直な思いをぶつけてくれた。続いて NCC 総幹事の金性済牧師、大阪のオモニ会代表からの発言が続いた。

驚いたのが、昨年 9 月の JR 赤羽駅で「朝鮮人コロス会」などという落書きを目撃、しかし学校や家族に危害が及ぶかもと悩み、親にも先生にも相談出来ず、1 か月も襲われる恐怖に怯えながら通学した、というある朝鮮学校生徒の話。胸が締め付けられた。この話を一生忘れないだろう。子どもの命と権利を守れないような社会に、いったいどんな未来があるのか。まさに 100 年前の差別と偏見が生み出した虐殺は、形を変えて受け継がれ、今はヘイトスピーチ・ヘイトクライムという名の竹やりで、人間の心というものを殺していくのである。実際に京都ウトロの町は炎と化してしまった。官民一体で差別とイじめが許容されるような社会の様相は実に浅ましく醜悪だ。何だかどんよりと疲れてしまった。しかし、このように日本と韓国で共感し合える仲間の存在は確かな希望である。最後に金曜行動から生まれた歌「声よ集まれ、歌となれ(소리여 모여라, 노래여 오너라)」を全員で歌って終了した。

この時は個人的に韓国の KIN(地球村同胞連帯)のチェ・サングさんと偶然お会い出来てよかった。コロナ前まで毎年夏に行っていた

「サハリンに取り残されたコリアンを訪ねる旅」では、とてもお世話になっていた。KIN はサハリンのコリアンに関する墓地調査活動などと共に、朝鮮学校の支援活動も積極的にされている。早くロシア・ウクライナの戦争状態を終結させて、またサハリンへ行きたい。





この後、西早稲田の日本キリスト教会館へ移り、フェアウェル(お別れ)パーティーが行われた。また学生達が主体となって企画、会議室に可愛らしい飾り付けもしてくれていた。食事と歓談の後、3日目のグループごとに代表者が所感を発表した。長いと思ったプログラムもいよいよ明日で終わりだ。それぞれ別会場の2次会へ行った人達も多かったが、私は飲んでからオリセンまで乗り換えるのが面倒なため先に戻った。着替えて駅前のショットバーへ出かけた。

・9月2日

公式日程の最終日である。朝食会場に人が少ない。連日のタイトな日程にみんな疲れたのだろうか。荷物をまとめてオリセンをチェックアウト。閉会式会場となるカトリック麹町聖イグナチオ教会の岐部ホールへ移動。2008年に列福されたペトロ岐部に由来、イエズス会日本管区本部の立派な施設であった。閉会式では全員の思いが集められた新しい宣言文が日本語と韓国語で読み上げられた。



日程や内容について日韓の参加者から後日、賛否両論諸々の意見が出されたが、現場を歩く主義の私としては全般的に良かったと思っている。何より各人が学校、家庭、職場、教会、研究会などそれぞれの持ち場において、いかに共有して広めていくかが重要である。同年代、或いは一回り以上も若い皆さんと共に日韓の課題に向き合えたことは大きな救いである。来年は再び韓国で開催予定だが、一層有意義な旅になることを期待したい。参加者・スタッフの皆さん1人1人に心から感謝である。

最後の記念写真を撮って解散した。再び市ヶ谷センターにチェックインした途端、旅の疲れがどっと襲い、ベッドに倒れ込んでしまった。見聞きした情報量が多すぎたのだろうか、気が張っていたのだろうか。2時間くらい寝入って、少し元気を取り戻した。お腹が空いたので



スタミナをつけるため、浅草駒形へどじょうを食べに行った。いつも繁盛している老舗だが、夕方前なのですいている。どじょう鍋と

鯉の洗いにカストリ焼酎を頂いて精をつけた。美味かった。ほろ酔い加減で宿へ戻ろうとしたら、「さらに進め、防災力強化、備えよ、常に！」と書かれた防災服姿の都知事の顔写真入りポスターが目に入り、一気に現実世界へ引き戻された気分になった。まったく物事の本質からずれてしまっている。地域防災は確かに必要だが、いざという時、煽られて新たな自警団とならぬことを願う。



夜は国会前のキャンドル集会に参加した。2日前の追悼大会の登壇者が一部そのまま移動したような感じの面々であった。ここにも多くの会衆で溢れ、共にシュプレヒコールを上げた。

ページがなくなりそうなので、内容は割愛する。

ともあれ集会終了後、9時を過ぎていたのだが、色々お世話になっている総連系在日商工人の誕生パーティーが行われている三ノ輪橋駅近くのおでん屋さんに出した。何と本人が一日店長。東京の朝鮮歌謡仲間達とも再会、私の旅の土産話もし、解放感もあり終電ギリギリまで大いに飲んで食べた。体調が戻ってよかった。

・9月3日

昼に高麗博物館の特別展を見に行った。日曜だったからか、新大久保の混みようは凄まじい。前に行ったことのある韓国料理店に何とか入れた。韓流パワーおそろべし。この力で日韓の政治をも動かしてほしいものだ。

夕方は在日大韓東京教会で行われた「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者100年キリスト者追悼集会」に参加した。説教は『通信318号』で紹介した『飴売り具學永』の著者キム・ジョンス牧師。100年前の朝鮮人・中国人虐殺の際に教会が何の声明も出さず、見て見ぬふりしてしまったこと、日本のキリスト者1人1人が深く悔い改め、教訓として後世に語り継ぐ必要があると思う。また当時、個々の牧師や信徒は何を目撃したのか、真相の解明が急務だと感じた。礼拝の中では犠牲者の涙をかたどった紙の花を全員で1つずつ捧げ、日韓ユース平和フォーラムで発表した宣言文の朗読も行われた。これにて私の旅程は終わり。



最後に参加者全員で草案を考えた第2回日韓ユース平和フォーラム宣言文を掲載しておく。

2023 年 第 2 回 日韓ユース平和フォーラム宣言文

2023 日韓ユース平和フォーラムに参加した私たちは、2023 年 8 月 29 日から 9 月 2 日まで、日韓の過去と現在について、多くの学びを得ました。とりわけ、100 年前の関東大震災における「朝鮮人・中国人大虐殺」の現場などを共に歩き、多くの証言に耳を傾け、今に続く苦悩や葛藤を想起しました。

今日に至るまで、日本政府は関東大震災時の「朝鮮人・中国人大虐殺」という事実を認めていません。また、韓国政府もその事実を教えていません。

大虐殺が起きたのは、予期せぬ大地震の恐怖の中から日本人の中に内面化されていた差別・排外主義が噴き出したのではないのでしょうか。

日本政府が大虐殺の背景となった差別・排外主義を扇動していたことを学びました。つまり国家仕掛けで行っていたということです。

そのような姿勢は、侵略戦争や、「韓国人被爆者」や朝鮮学校に対する差別的取り扱いへと繋がっています。私たちはこのような事実を決して無かったことにはさせないように、証言と事実を世代を超えて継承していく責任を感じました。

それゆえ私たちは、以下のとおり宣言します。

1. これまで自分たちがいかに無知であり、無関心であったかを深く反省し、真実を学ぶ権利を行使し、歴史的証言を継承していきます。
2. 想像力を働かせ、現在も日本社会の中で命の危険と恐怖を抱きながら生きざるを得ない状況に置かれている在日コリアンはじめ、過去から続く政府の過ちにより、痛みを負い続けている人々の深い苦しみを共にします。
3. 現実社会及び、インターネット上でのあらゆる差別と暴力を絶対に許さず、そのような言動があった場合には勇気をもって声を上げます。
4. 様々な違いを抱えつつも、互いを尊重したコミュニケーションを続け、対話に開かれた社会を築いていきます。
5. 内面化されている自身の加害性に向き合い、国籍や性別、バックグラウンドにかかわらず、すべての人の命と尊厳が守られ、誰もが個人として尊重される社会を日常生活の中で実践していきます。
6. 力による支配を拒否し、軍事ではなく市民による平和外交を進めていくために、互いに協力して実際に行動をします。

2023 年 9 月 2 日

〈2023 日韓ユース平和フォーラム参加者一同〉



(おわり)